

科研費申請プロセスを媒介とした 教員の研究力向上に関する研究 —教育実践の質的向上を目指した組織的アプローチ—

【研究の背景】

申請者は、科学研究費助成事業の奨励研究において5回採択され、個人的に研究をすすめてきた。そのプロセスにおいて、自身の研究の視点が明確になることが実感できた。採択、不採択に関わらず、このプロセスを個人だけではなく、所属校のチームで組織的に取り組み、共有して個人の研究にかえすことにより、所属校の研究の質的向上に貢献できるのではないかと考えた。

【研究の目的】

現代の学校教育では、教員個々の研究力向上と組織全体の教育実践の質的向上が求められている。しかし、日常的な教育実践と研究活動の往還は十分に機能していない現状がある。本研究では、科研費申請書作成というプロセスに着目し、それが教員の研究力向上と組織的な教育実践の質的向上にもたらす効果を明らかにする。特に、申請書作成の過程で生じる思考の深化や研究的視点の獲得に注目し、そのプロセスが持つ教育的価値を検討する。

【研究の理論的枠組み】

本研究では、科研費申請プロセスを「教員の専門性開発」と「組織的な教育改善」を架橋する媒介として捉える。個々の教員の研究力向上が組織全体の教育実践の質的向上につながるメカニズムを理論化する。具体的には以下の3つの側面から検討を行う。

- 個人の専門性開発における科研費申請プロセスの機能
- 研究的視点の獲得による教育実践の質的変容
- 組織全体の教育力向上へのつながり



【研究方法】

同一校の教員を対象とした質的研究を実施する。データ収集は以下の方法で行う。

- 半構造化インタビュー（申請プロセスの開始時、中間時、終了時の計3回）
- 定期的なグループディスカッションの実施
- 科研費申請書作成過程の分析
- 教育実践における変容の観察

【期待される成果】

本研究により、以下の点が明らかになることが期待される。

- 科研費申請プロセスを通じた教員の研究力向上のメカニズム
- 個人の研究力向上が組織的な教育改善につながる過程
- 持続可能な研究体制構築への示唆

これらの成果は、学校における研究文化の醸成と教育実践の質的向上に寄与すると考えられる。